

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2770302202		
法人名	社会福祉法人 月の輪学院		
事業所名	グループホームつかさの家		
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町2丁目3-5		
自己評価作成日	平成 27年 1月 18日	評価結果市町村受理日	平成 27年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&jigyosyoCd=2770302202-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 2月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔あふれるやすらぎの家を目指す」「個性を大切に人対人で生きていく」を目標に、利用者さんにとって、今、何が大切かを職員全員で話し合いながら、日々支援に取り組んでいます。「気づき」「振り返り」を大切にしながら、利用者ひとりひとりの個性を尊重する個別支援にも力を入れています。

家族様には、日々の生活をまとめたアルバムやDVDを作成し、利用者の様子や地域との関わり方を知ってもらう努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長年、障がい者支援に尽力されている法人が、認知症高齢者が安心して、安全に心豊かに暮らせるようにと開設して、10年目を迎えます。近隣に同法人の知的障がい児施設や障がい者の施設があり、サポートを得ながらホームを運営しています。地域との交流も盛んで、つながりが深まっています。ホームは豪邸を改装して、ゆとりのある空間や立派な庭園を生かしながら、家庭的な雰囲気と利便性を持ち合わせ、温かみのある造りになっています。管理者は看護師の資格を生かしながら、職員の質の向上に力を入れており、医療面、薬に関する配慮をしています。職員は、利用者との1対1の関わりの中で利用者に寄り添い、笑顔が多くなるケアを実践しています。支え合うケアは、ホーム全体の安定・安心・向上となっています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掘り下げて、スタッフと話し合う機会を持ち、「私たちの理念」として、今、何を大切にサービス提供していくかを考えている。施設内に掲示することはもとより、各職員が理念をエプロンのポケットに携帯し、いつでも振り返ることができるようにした。	利用者の入れ替わりや状態の変化の際に、随時スタッフに意見を聞いています。今年の初めに「私たちの理念」の見直しを行い、「笑顔あふれるやさぎの家を目指す」「個性を大切に人対人で生きていく」に変更しています。職員は理念をポケットに携帯し、いつでも確認できるようにしていますが、職員から唱和の申し出があり、朝のミーティングで唱和し、共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎日の散歩や、地域の祭り、ふれあいサロンで地域の方と顔馴染みの関係になっている。また、地域の人達の交流の場のふれあいサロンで、タオル体操やゲームなどを職員が披露したり、地域包括支援センターからの依頼で「地域とのつながりは利用者が主役」という題で発表する機会があった。	毎日のように出かける散歩の中で、地域の人と挨拶を交わし、交流をしています。自治会には、法人全体で加入しています。公民館のふれあいサロンでの交流がきっかけで地域の方と親しくなり、自治会の方が、ホームのキッチンスタッフになっています。地域包括支援センターが主催する集まりの中で、地域との交流が盛んであるグループホームの一つとして、「地域とのつながりは利用者が主役」という発表の機会を経験しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎月「つかさだより」を地域の人々に発行しており、その中で認知症の人に対する理解や支援の方法を記載している。今後は、相談日を設けて直接地域の相談窓口になれるようにしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、支援の状況や防災、行事報告などを行っている。参加して下さるメンバーから様々な意見をいただき、その意見を参考にし、支援に取り組んでいる。昨年度は地域包括支援センターからの依頼で、地域のつながりについての講義を行った。	運営推進会議は2か月に1回、自治会長、民生委員、老人会会長、市職員、地域包括支援センター職員、市議員、法人理事長、事務長、管理者、職員の参加により開催しています。利用者の状況、行事報告、設備・防災の報告、勉強会、ワンポイントの心理テストなど、毎回幅広い会議内容で、報告や意見交換を行っています。自治会長から地域の防災訓練、お祭りの案内やグランドゴルフの誘いもあります。老人会会長は、会議の参加をきっかけに、ホームの庭園の一角にある畑の野菜作りで来訪しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと日頃から連絡をとっている。施設内での事故報告なども市町村に行い、運営推進会議などを通して施設の実情を外部の方にも知ってもらい、情報の共有や対策案など、アドバイスをいただいている。	市の担当課へ、介護保険の申請や事故報告で出向いた際、挨拶や相談をして、話を聞く等、都度連携を取るように努めています。市からも、情報提供を得ています。市の社会福祉協議会には、ボランティアの要請をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施している。防犯上、玄関の施錠はしているが、利用者がいつも外に出られる場所があり、普段はそこから外に出ている。センサーを設置しているが、それに頼らずスタッフ一人一人の見守りや工夫をしている。	日中門扉が開いており、開放感があります。門扉を入ると広い庭園があり、庭へは自由に出入りすることができます。日中、利用者也出入りが可能なドアには、夜のみセンサーを設置し、安全に留意しています。身体拘束のマニュアルも整備しており、事業所内研修にも取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての研修を定期的に行っている。日々の支援の中でも、言葉かけなどに注意してスタッフ同士で注意し合える関係作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が1名おり、毎月後見人との交流があり、学ぶ機会を設けている。身寄りのない人がいるため、今後も利用者にとって必要な制度を利用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時も直接会って説明している。利用料金などの改定等の際は必ず根拠を示し、率直な意見をいただけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年、苦情委員会を開催した。担当スタッフに日々の会話の中から、不満や苦情を表出してもらえるように働きかけを行った。家族には、手紙や面会時に管理者から問いかけている。意見箱やアンケート用紙を設置している。	家族会を年に一度、クリスマス会の後に開催しています。運営に関する意見を聞く機会として、運営推進会議に家族会会長も出席することとなりました。ホームの食事の試食会を開き、家族に意見を聞いています。家族がホームに来訪の際は、意見や苦情を聞くように努めています。利用者には、担当職員が毎日寄り添う中で意向を確認しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にアンケートをとり、職員の要望や意見を出してもらっている。日々のコミュニケーションの中から話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。管理日誌の中に気づきの欄を設けてその意見に基づいて支援や改善に取り組んでいる。	年に数回、職員にアンケートを実施しています。ヒアリング用紙により、業務について、自己評価5段階、問題や課題を聴き取り、設備等の予算に関わる事案は法人に提起しています。管理者の裁量により、可能な物はすぐに購入することができます。また、職員の要望により、焼き肉パーティが実現しました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフそれぞれの希望に沿うように個別に管理者と話す時間を設けている。 ステップアップしていく為の資格取得の支援（費用の負担）を検討してもらうよう法人代表者と話し合っている。専門の資格についての手当なども充実させる予定である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの希望を聞いた上で、昨年度は得意な分野での更なる向上を目指した研修を受ける機会を設けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会に加入し、他施設との交流の機会や情報交換を行っている。実践者研修や、管理者研修の受入施設として交流し、相互訪問等、交流の機会をいただいている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての訪問や面談の時は、必ず担当のスタッフと共に行き、入所した際に不安にならないよう、馴染みの関係を築く努力する。聴くことに重点をおいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や想いをくみとりながら、利用者と家族の想いを近づける努力をしている。家族には、一緒になって利用者を支えていく存在だということを知ってもらうよう、言葉がけしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の心身の状態、家族の想いを踏まえた上で、今、何が利用者にとって必要なサービスかを、色々な側面から考え、グループホームという施設の枠だけにとらわれない利用者中心のサービスを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフが、一緒に笑い、楽しみ、時には一緒に怒り、家族のように色々な想いを共有し、お互いがかけがえのない存在となれるよう、関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって、家族との関係が一番大切であり、支援を共にしていく必要があると考えている。 行事にお誘いしたり、利用者の様子を手紙などで伝える機会を設けている。 スタッフは、利用者の気持ちを家族へ伝える「つなぐ」役割をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの喫茶店に行ったり、友人が施設に遊びに来る利用者もいる。毎月家族と墓参りに行かれる利用者もいる。友人などと定期的に外出したりしている利用者もあり、手紙のやりとりもある。	入居前から通っていた、美容室に行く利用者がいます。馴染みの喫茶店、カラオケ、カラオケ喫茶にも出かけています。家族や友人と外出や、ホームへの訪問もあります。ホームでの行事写真でアルバムを作り、DVDに撮って家族に見てもらい喜ばれています。家族には毎月、各担当職員から1ヵ月の様子を手紙に書き、事業所だよりと一緒に送っています。楽しみにしている歌手のコンサートにも家族に了承を得て準備し、一緒に行くこともあり、利用者の馴染みや楽しみをいつまでも継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、ほとんどの利用者がリビングで過ごすことが多く、近い距離で馴染みの関係に自然となっている。外泊や入院で利用者がいないと、「〇〇さんはどうしたの?」といった心配される声が聞かれる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方も施設に遊びに来たり、遠方の施設に転院された利用者から手紙や電話があり、関係性を継続している。その際に、相談などもケアマネージャー中心に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1の個別に関わる機会を通して本人の意向や想いを表出できるよう工夫している。24時間生活シート等を定期的に施行し、本人の気持ちの変化に気づくように日々検討している。	各利用者に担当職員がつき、1対1の関わりから信頼と馴染みの関係を構築し、個別に希望を聞けるよう取り組んでいます。24時間生活シート、管理日誌、介護記録、利用者の日々の何気ない様子と会話の中から、思いや意向の把握をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に協力してもらい、昨年度入所した利用者の生活史を書面で書いてもらった。家族の想いを知り、利用者の今までの暮らしを知ることで暮らしの継続を行うヒントにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方を時間ごとにシートにまとめて、スタッフに把握してもらっている。好きなこと、苦手なこと、出来ることに焦点をあて、利用者の個性を大切に、アプローチをかける支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の職員会議で、利用者の状態と今後の方針や問題点について意見交換を行っている。担当者会議も定期的に行い、事前に関係する訪問マッサージの先生などにも意見をいただいている。モニタリングも2か月に1回行い、利用者に説明・同意をもらっている。	介護計画は、6ヵ月毎に見直しをしています。見直しにあたっては、毎月の職員会議の中で利用者の変化を含めた状況を、担当職員を中心に聞き取ります。モニタリングは2ヵ月に一度、アセスメントも6ヵ月毎に実施しており、介護計画に反映しています。介護計画は女性職員の意見により、手書きで家族に温もりを感じてもらえるようにしてはどうかとの意見を取り入れて、毎回手書きで作成しています。見直した介護計画は、利用者本人の同意を優先して、署名を得るようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を定期的に取り入れ、ケアマネージャーを中心に再アセスメントをし、スタッフ間で意見交換をしながら介護計画を作成している。日々気づいたことを記録し共有できるよう、管理日誌の気づき欄は継続して取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望を聞き、家族との旅行に行かれ、喜ばれた利用者もいた。個別に対応した支援を家族にも協力してもらいながら取り組んでいる。訪問マッサージ、訪問美容も継続している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の馴染みの喫茶店などに行き、友人等と交流している。 地域のふれあいサロンにも月1回参加し、地域の人たちとも顔馴染みになっている。散歩の際に、声を掛けて下さる地域の方もおられる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々、入居前のかかりつけ医や家族と相談しながら、継続して受診できるよう支援している。病院受診の際は、看護師が同行し、日々の状態を説明している。家族にも必ず報告し、薬の変更などの際には必ず説明をして、理解してもらっている。	基本的に、入居前からかかりつけの医療機関へ受診を継続しています。管理者は、同行が必要と思われる際や重要な症状、専門医への受診時には同行しています。法人全体の嘱託医の受診も可能です。看護師である管理者は、薬に関しては特に注意を払い、職員にも伝え、学んでもらえるよう努力しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師を兼務している為、日々看護師も利用者・スタッフと関わる機会が多く、情報交換が来ている。 管理日誌に気づきの欄を設け、日々気づいたことを記録し、共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は相談員・ケアマネジャーと早期から情報交換を行い、病院関係者・家族・施設スタッフ・看護師など定期的に退院に向けてのカンファレンスも開催している。スタッフやケアマネジャーも利用者との馴染みの関係を継続させるべく面会に行くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、つかさの家で対応できる範囲を家族に説明している。家族が看取りを希望された場合も、希望をどれだけ受け入れられるかをスタッフと共に検討を重ねている。重症化に伴う事前の意志の確認書を作成し、家族に説明している。夜勤時の対応は、看護師が対応するのを徹底している。	現在では、重度化している利用者はいませんが、今後、重度化に向けての職員に対する研修や、看取りマニュアルの検証を進めていく予定です。利用者・家族には、看取りケア指針を基に説明し、利用に際しての事前確定書によって意向を聞き取っています。ホームで、最期を迎えたいという希望の利用者に対して、できるだけ希望が叶えられるよう、体制作りに向けた準備を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度、応急手当普及員の資格を取得したスタッフ中心に訓練を実施している。施設で実際に急変した事例などを元に、振り返りの勉強会を実施している。吸引の説明などは、看護師中心で行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署に報告を行う自衛消防訓練を中心に行っている。前回の訓練では、利用者の家族にも参加して頂き、意見交換を行った。地域の消防訓練にも参加させていただき、地域運営推進会議の委員の方々には災害時協力を要請させていただける様、緊急時の連絡先を教えていただいている。そのほかには、職員に予告なしで緊急連絡網が機能するかを試し、評価・改善等を行った。災害時の備蓄は各階に用意している。	災害マニュアルに沿って、職員と利用者で避難訓練や消火訓練を毎月行っています。消防署に報告する訓練としては、年に2回実施しています。地域運営推進会議の会長をはじめ、家族会等、委員の協力やアドバイスを得て、災害訓練を実施しています。全居室とホーム全体にスプリンクラーを設置しています。災害時の備蓄は各階に準備し、解りやすい所に置いています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員・パートという区別は利用者にとっては関係がないことを施設内研修で全職員に話し、個人情報保護の研修も行っている。利用者ひとりひとりの個性を大事にし、人生の大先輩との敬意を持ち、本人の人格を尊重した言葉がけをするように心がけている。日々、優しい態度と、笑顔を忘れないよう働きかけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、個性が発揮できるような、言葉かけや対応で働きかけています。職員は、正職員・パートと区別なく関わられるよう、個人情報保護の研修を全職員に行っています。排泄介助の際は、同性介助にする等、配慮しています。毎朝の散歩には、玄関にそれぞれの帽子や手袋等、外出に必要なものを入れた布袋を靴入れの上に置き、上着も利用者自身で着ることができるよう、利用者を支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	担当者を決めており、個別で過ごす時間をとれるように支援している。1対1の散歩や入浴、外出などでゆっくりそばにいて、本人の想いを表出できる環境の調整をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れを作ってはいるが、強制はせず、本人のペースにあわせる努力をしている。部屋で好きなDVDを見て過ごされたり、行事などの参加なども、本人の希望に沿って、全員参加型にしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝は必ず、整容の時間をとり、本人の化粧ポーチで化粧をし、髪の毛をセットしてもらっている。服なども自分で選んでもらうようにしてもらっている。行事で、ドレスや着物を着る機会も作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者希望の手作り料理やお菓子作りを、月1回以上は行っている。利用者の能力に応じて一緒に調理したり、後片付けを自然にしてくれたりする。家庭菜園で収穫した野菜や近所の方の差し入れが食卓にのぼる。	食事の材料と献立は業者から届き、食事は「キッチンスタッフ」と呼ばれる調理担当職員が作っています。ダイニングキッチンでは、利用者がそれぞれの役割を持ち、和気あいあいとした雰囲気の中、職員と共に食事の準備をしています。献立は、利用者が手書きしたものを日めくりのようにして、壁に貼っています。月に1回は手作りの日を設けて、利用者は職員と共にメニューを考え、食材の買い出しに行き、一緒に調理をしています。庭の菜園で収穫したふきのとう等の季節の野菜や、地域の方からの差し入れ等も食卓にのぼり、味付けや食材について話を楽しむ等、ゆったりとした時間が流れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の栄養状態、体重変化などを見ながら、バランスよくおいしく食べてもらえるよう工夫している。水分もゼリーや果物で補充している。食器なども本人の状態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの力に応じた口腔ケアを訪問歯科の先生と相談しながら、ケアをしている。口腔スポンジや歯磨きティッシュなども併用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、個別の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレの声掛けを行っている。オムツを使用している利用者には、各利用者に合わせたオムツを検討し、昼・夜と本人の排泄に合わせて変えている。本人が失敗したときにもすぐに変えられる場所(トイレ横の洗面所)に、パットを置いています。	一人ひとりの排泄パターンは、排泄記録を利用して知り、対応しています。頻尿で一日に何度もトイレに通う利用者には、希望のトイレを安心して使えるよう配慮しています。失禁等がある利用者にも基本は布パンツで、パット対応を薦めています。排泄の自立を促すべく、利用者自身が分かりやすいよう、流せるパッドをトイレ近くに置いて使用する等、職員と利用者で自立に向けた工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者への取り組みとして、オリゴ糖やヨーグルトなどを使用し、自然排便を促す取り組みをしている。排便マッサージなども行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1対1の個別での入浴介助をしている。脱衣～入浴～更衣まで、ゆっくりとした時間をとっている。足浴やゆず風呂なども取り入れている。	2日に一度は入浴できるようにしており、行事の都合や入浴時間の希望を考慮しています。入浴を好まない利用者には、好みの職員との入浴や、翌日の受診や外出予定等を伝え、入浴の意欲を持ってもらえるように工夫しています。入浴前には利用者の好きな着替えと一緒に選び、入浴が楽しめるようにしています。体調によりシャワー浴や、発熱の際には足浴等で対応しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	それぞれの生活リズムに合わせて休 息がとれるようにしている。不安が ひどい人には、人の声が聞こえる和 室で横になってもらい、個室の部屋 で眠ることにこだわらない個々の 状況で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	看護師より薬の説明、副作用など説 明をしている。薬の変更時は管理日 誌に記載し、スタッフ間での情報共 有に努めている。 薬についての勉強会も開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	本人の好きな事を生活の中で取り 入れ、継続する役割を持ってもら っている。料理が好きな人は食事 の支度、字を書くことが好きな人 はお品書きや写筆などをしてもら っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出に力を入れている。本人の希望に合わせて、カラオケ・馴染みの喫茶店・外食・買い物・コンサートなどに出かけています。昨年は利用者の希望で、家族と利用者が温泉に行くことが出来た。車いすの利用者も、散歩や庭に出てもらい、季節を五感で感じてもらっている。	職員のミーティング後、可能な限り毎日散歩に出かけています。喫茶店やカラオケ、外食、買い物等、利用者の希望に添って外出をしています。散歩に出かけられない時にも、ホームの庭園や庭にある畑に出て、外気浴をするようにしています。家族との外泊の際、職員は注意事項や心配なこと、パッドの交換時間等を手紙に書いて、家族に渡しています。手紙の内容で、家族も利用者の様子を知り、安心して外泊ができたことや、利用者との接し方に自信が持てたことを喜んでいます。また、この経験が、更に今後の外出や外泊へと繋がる支援となっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自由にお金を所持することにしており、スタッフが利用者の能力に応じて支援している。利用者と買い物に出かける際は、自分の財布を使用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は、自由にしてもらうことができる。 手紙は、毎月利用者の家族や友人達とのやりとりがあり、日々の状況を報告している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、個人の椅子とソファでくつろげるように工夫しており、写真や利用者手作りの作品を掲示している。リビングからは調理している心地よい音や匂いを感じることが出来る。ダイニングからは庭の木々や花を眺めることができ、季節感を感じてもらっている。	大邸宅を改装した2階への移動にはエレベーターを設置し、広い玄関にはスロープ部分もあり、車いすでも移動が容易にできるように、バリアフリーを考慮した造りになっています。テラスに続く広い庭に面したリビング、ダイニングには陽射しが差し込み明るく暖かく、ゆとりがあります。リビングには大きなソファが配置されて、利用者はゆっくりくつろぐことができます。ダイニングのテーブルでは食事以外にも利用者が優しい音色のオルゴールのCDが流れる中で、脳トレーニングやぬり絵をしています。キッチンとつながっており、調理の音やにおいが食欲をそそり、間にあるカウンターが利用者の食事の準備に役立つスペースになっています。壁には、行事の時の利用者の笑顔の写真や習字、手作りの作品が飾られています。利用者は、手入れが行き届き、綺麗に花が植えられている等、季節感を感じられる庭に出る楽しみがあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不安がひどい利用者にはリビング横の和室にベッドを置き、必要時に使用し、人の声や気配を感じてもらふ工夫をしている。2階にも共有スペースを設置し、少人数で落ち着いた時間を過ごせる場所をつくっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや家具などは、馴染みの物を持ち込んでもらっている。家族の写真や、仏壇を持ってこられ、水を替えたりしている利用者もいる。部屋に好きな歌手のポスターを貼っておられる利用者もいる。	居室には、ベッド・エアコン・カーテンが備えつけられています。入居時には、大切な仏壇やタンス、ドレッサー、テレビなど、思い思いにお気に入りの物を持ち込み、好きな歌手のポスターを壁に貼っている利用者もいます。室内はそれぞれの好みのままに設えており、利用者にとって、居心地良く過ごせる場所になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視力がほとんどない利用者の夜間トイレ歩行の自立の為に、本人専用のセンサーライトをつけ、個別支援に取り組んでいる。		